



Magic xpi Integration Platform ペーパーレス・ソリューションに

システム連携で自動化をプラス

ペーパーレス化の目的とは？：文書の電子化だけではもったいない。
ペーパーレス化の目的が業務効率化であるなら業務システムとの連携
が不可欠



TABLE OF CONTENTS

<u>旧くて新しい“ペーパーレス”という言葉</u>	<u>3</u>
<u>電子契約ソリューション</u>	<u>4</u>
<u>ERPとAGREEとのサービス連携（納品書の例）</u>	<u>6</u>
<u>ワークフローとAGREEとのサービス連携（契約書の例）</u>	<u>8</u>
<u>PDF帳票との連携</u>	<u>10</u>

ペーパーレス・ソリューションの動向

旧くて新しい“ペーパーレス”という言葉

30年以上前「オフィスオートメーション（OA）」の目指すべきゴールとして「ペーパーレス」という言葉が使われはじめました。当時「ペーパーレス化しよう」というとき、以下の2つがその主な目的でした。

- ①紙代、印刷費、郵送費、保管コストの削減
- ②環境にやさしい企業イメージ作り

しかし現在では、単に文書を電子化することだけがゴールではなくなっており、電子化した後の

- ③情報活用、業務効率化
- ④ワークスタイル改革への対応
- ⑤情報漏えい/セキュリティ対策

など、目的はより広範囲に拡大しています。

1998年に制定された電子帳簿保存法により、書類の電子化が可能になったことと、年々、その法律の規制緩和が進んだことが背景となり、企業活動で生み出される紙や書類がより電子化しやすい状況になっています。これは1企業内の努力だけでは難しかったペーパーレス化が、社会全体の仕組みとして取り組みやすい状況に発展してきたことを意味しています。

そのため現在では働き方改革・業務効率化の一環でペーパーレス化を推進されるお客様が増えており、その手段として、数多くのソリューション・ベンダーが様々な関連サービスや製品を提供しています。

ペーパーレス化を次のステージへ

市場には様々な「ペーパーレス・ソリューション」が提供されていますが、電子化されたデータが企業の経済活動から生み出されるものであるために、次のステージでは業務システムとの連携と自動化の要件が表面化されるようになりました。本ホワイトペーパーでは、ペーパーレス・ソリューションの例として電子契約ソリューションとPDF帳票および電子署名ソリューションをご紹介しますとともに、既存の業務システムとの連携によりもたらされる、ペーパーレス・ソリューションのその先ある、次の目指すべきゴールについてご提案します。

電子契約ソリューション

働き方改革・業務効率の一環でペーパーレス化を推進されるお客様が増えています。その手段として、電子契約サービスの活用が進んでいます。

電子契約とは

「紙＋押印」で締結していた契約書に代わり、「電子文書＋電子署名(電子サイン)」で締結する契約のこと

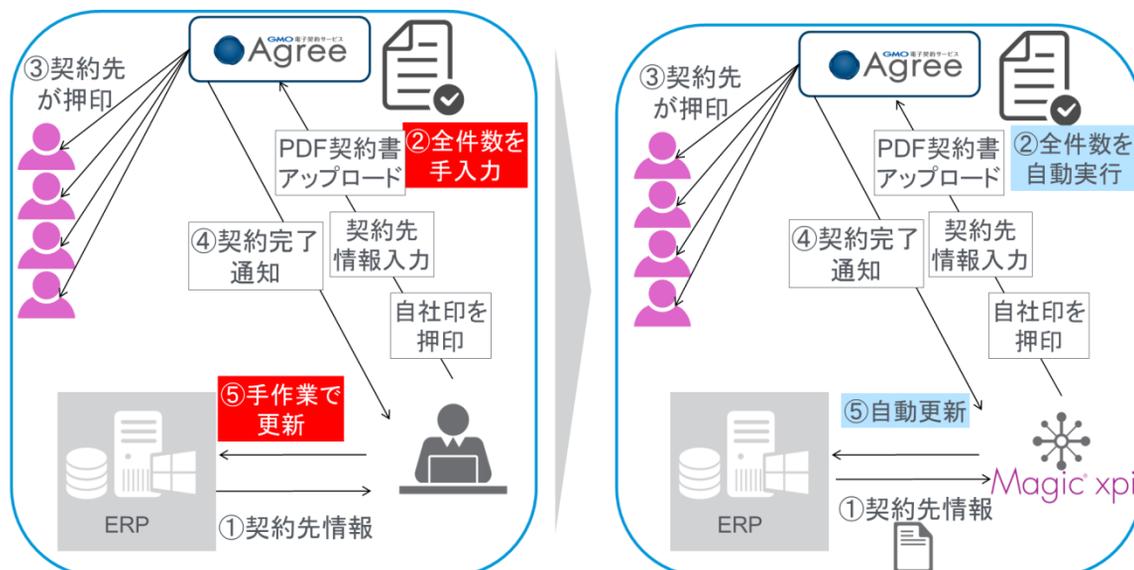
■ 電子契約のメリット

- ①締結コストを削減(印紙税、送料)
- ②締結手続きのスピードアップ/業務の効率化
- ③コンプライアンス強化
- ④事業継続計画(BCP)・災害対策(DR)

■ 電子契約によるコスト削減効果は、以下URLでご確認いただけます。

<https://www.gmo-agree.com/cost/> GMO電子契約サービスAgree費用対効果試算ツール)

■ 電子契約サービスは契約書の電子化のみならず、納品書、注文書などの捺印を必要とする書類にも適用されており、**ワークフローやERP等とのシステム連携ニーズが増えてきております。**



電子契約ソリューション(取引書面授受の効率化)

取引書面授受の課題

- ・紙書面の授受(印刷・郵送・入力)に時間がかかる
- ・印紙・印刷・郵送、保管などのコストがかかる。
- ・取引書面を探すのに手間がかかる(監査対応が大変)
- ・災害時における取引書面の消失リスク

取引書面授受に対する解決策

- ・取引書面を電子化、システム間連携で取引を自動化
- ・印紙・印刷・郵送、保管などのコストを削減
- ・取引書面の電子データを容易に検索
- ・取引書面を複製して保存、災害時でも復元可能

取引書面授受の効率化を実現するソリューション

電子契約サービス

企業間取引における捺印書類(契約書、納品書、注文書、注文請書など)を電子化・電子署名し、ペーパーレス化とコスト削減を実現



データ連携ツール

ERP、電子契約サービス、グループウェア間のデータ連携をノンコーディング開発し、連携開発の工数削減と業務プロセスの自動化・効率化を実現



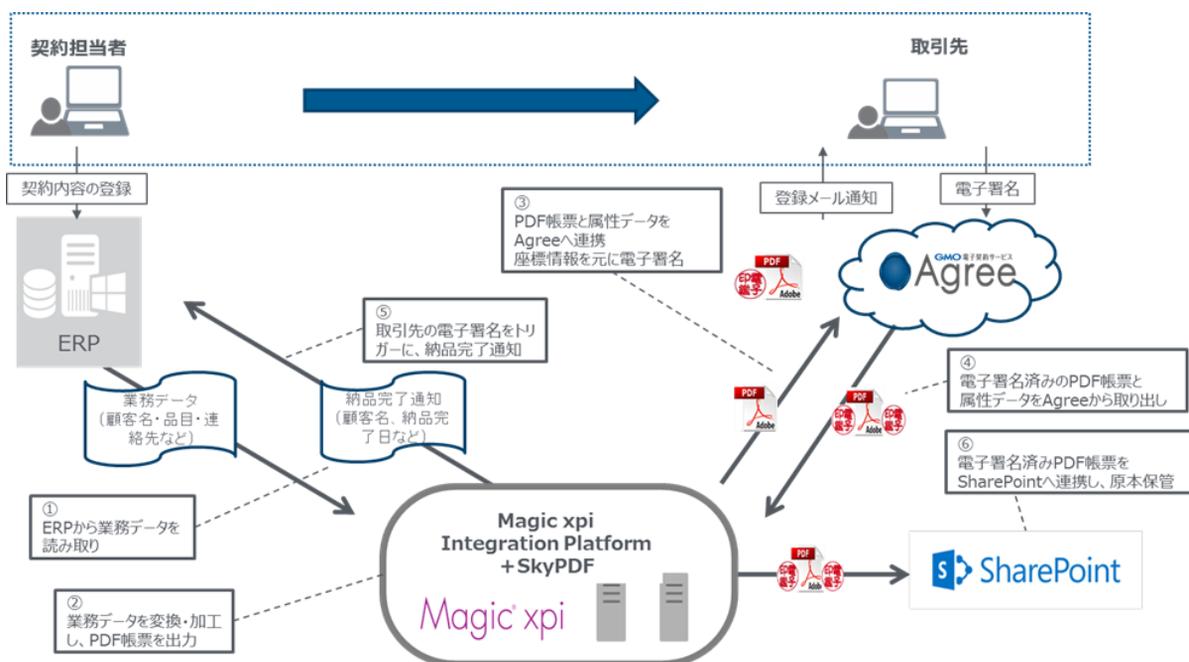
ERPとの連携



ERPとAgreeとのサービス連携（納品書の例）

マジックソフトウェアのシステム連携ツール「Magic xpi」により、以下の一連の業務プロセスを自動化することが可能になります。

- ① マジックソフトウェアのシステム連携ツール「Magic xpi」がERPから業務データを抽出し、PDFを作成
- ② PDF帳票を取引先情報とともにAgreeにアップロード（API経由のサービス連携）
- ③ 取引先により電子署名されたことをトリガーに、「Magic xpi」が電子署名済のPDF帳票をAgreeから取り出す
- ④ 電子署名済PDF帳票をSharePointに保管
- ⑤ Magic xpiからERPに対し納品完了のステータスを返す



電子契約ソリューション(取引書面授受の効率化)

取引書面授受の課題

- ・紙書面の授受(印刷・郵送・入力)に時間がかかる
- ・印紙・印刷・郵送、保管などのコストがかかる。
- ・取引書面を探すのに手間がかかる(監査対応が大変)
- ・災害時における取引書面の消失リスク
- ・**未承認の契約行為が行われうるリスク**

取引書面授受に対する解決策

- ・取引書面を電子化、システム間連携で取引を自動化
- ・印紙・印刷・郵送、保管などのコストを削減
- ・取引書面の電子データを容易に検索
- ・取引書面を複製して保存、災害時でも復元可能
- ・**電子署名(電子証明書)で押印権限を管理した押印処理**
- ・**ガバナンスとコンプライアンス強化**

取引書面授受の効率化を実現するソリューション

電子契約サービス

企業間取引における捺印書類(契約書、納品書、注文書、注文請書など)を電子化・電子署名し、ペーパーレス化とコスト削減を実現



ワークフロー

使い慣れたExcelで、自由自在にフォームをデザインできる。
日本企業の細かなニーズに応える複雑な申請ルート設定が可能



データ連携ツール

ERP、電子契約サービス、グループウェア間のデータ連携をノンコーディング開発し、連携開発の工数削減と業務プロセスの自動化・効率化を実現

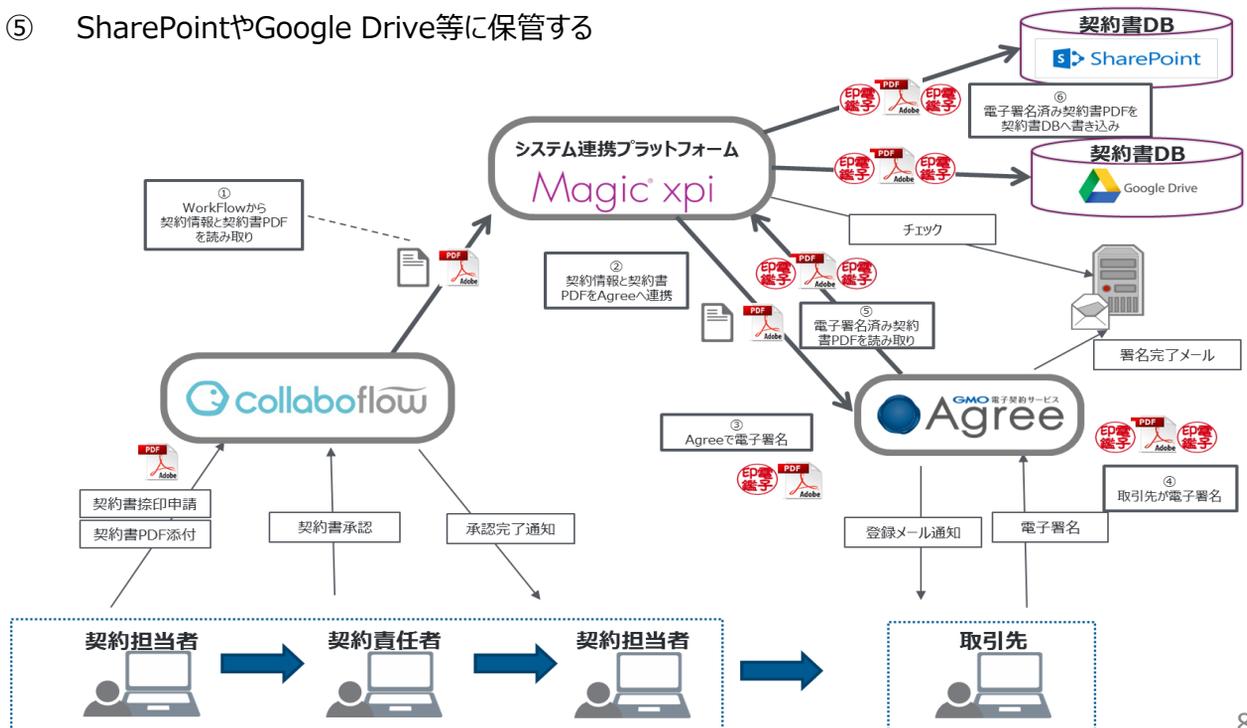


ワークフローとの連携

ワークフローとAgreeとのサービス連携（契約書の例）

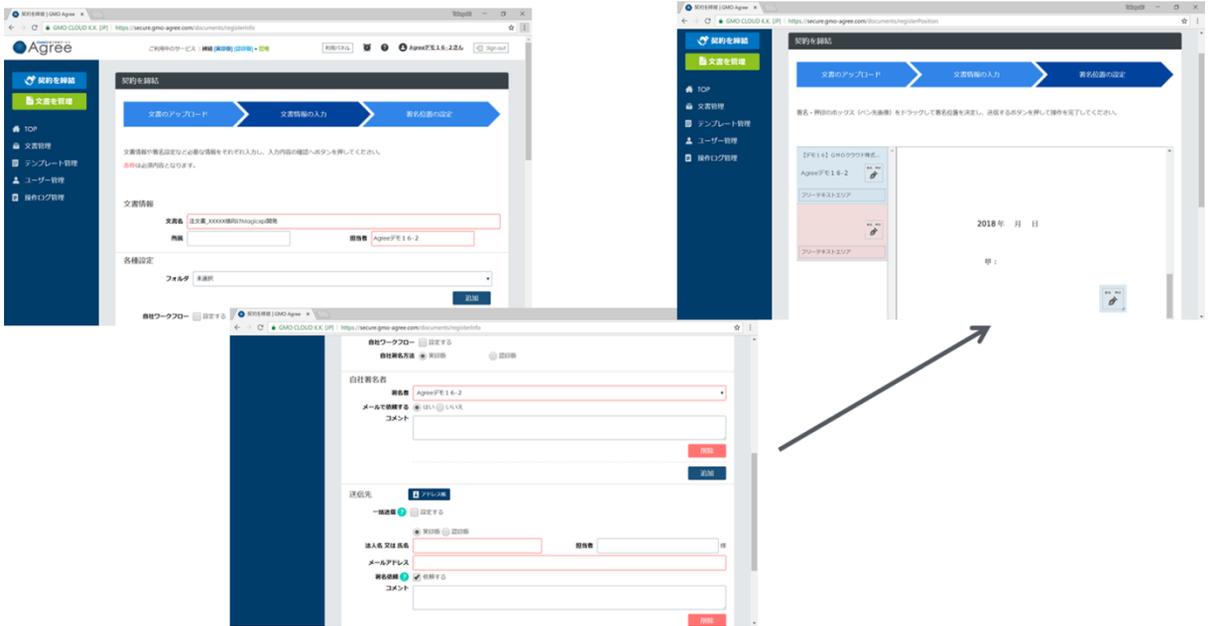
マジックソフトウェアのシステム連携ツール「Magic xpi」より、以下の一連の業務プロセスを自動化することが可能になります。

- ① 契約締結をコラボフローで承認フローを回す。承認されると、コラボフローからMagic xpiにHTTPで契約情報と契約書PDFを送信する、
- ② Magic xpiはHTTPでの受信をトリガーに、契約情報と契約書PDFをAgreeに送信（API経由）
- ③ Magic xpiがAPI経由で送った座標位置情報をもとに、PDF契約書にAgreeが押印する
- ④ 取引先による電子署名が行われると、Agreeから送られる署名完了メールをトリガーにMagic xpiがAgreeから電子署名済み契約書を取り出す。
- ⑤ SharePointやGoogle Drive等に保管する



ペーパーレス・ソリューションを業務につないで自動化する

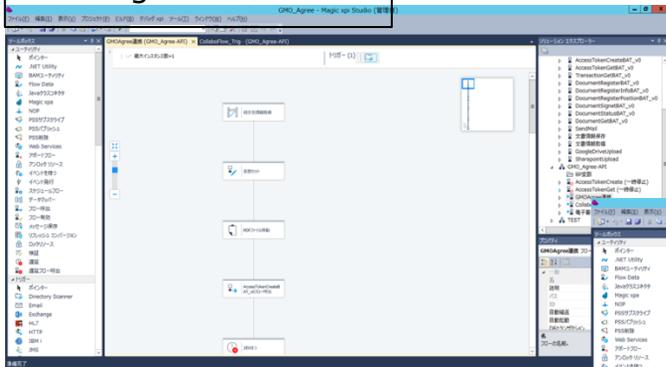
例) GMO Agree入力画面



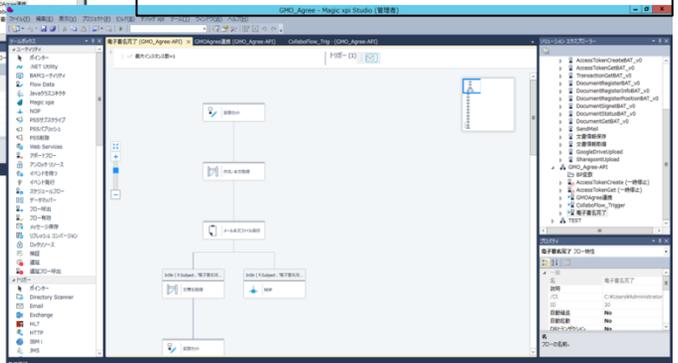
“属性データの入力”、“押印位置設定”、“自社側の押印”をMagic xpiで自動化

例) Magic xpiで作成した自動化の連携フロー

GMO Agree連携フロー



電子署名完了通知メールトリガーフロー



PDF帳票との連携

電子サインの有効性（スカイコム殿資料より抜粋）

日本の商習慣に深く根ざし、電子化・ペーパーレス化を阻む要因となっていた“印鑑文化”ですが、各種手続きや契約など、押印なしには成立しないと思われていた分野に、電子帳票 + 電子サインによる“印鑑レス”な手続き、サービスが相次ぎ登場しています。

// 私文書は、本人又はその代理人の署名又は
押印があるときは、真正に成立したものと推定する //

民事訴訟法228条4項

「署名」か「押印」があれば契約は有効

署名



- ・印鑑を持参する必要がない
- ・他の本人確認手段と組み合わせることで、より強固な本人認証が可能
- ・筆跡鑑定が可能
筆圧等、本人の直筆であることを証明する要素多く含まれていることが望ましい

押印



- ・印鑑を持参する必要があり、盗難・紛失のリスクがある。
- ・印鑑は容易に偽造でき、セキュリティ面で不安要素が残る

背景

- ・「e-文書法」により、電子化文書の保管が可能。
- ・企業にとっては紙のコストは負担であり、紙に関わる業務は煩雑な作業を伴うため、ペーパーレスの動きが加速。

ペーパーレス化(電子化文書)のメリット

- ・紙・印刷・郵送、保管などのコストを削減
- ・電子化文書の検索が容易
- ・電子化文書を複製して保存、災害時でも復元可能

電子化文書フォーマットなら“PDF”が最適

- 国際標準規格(ISO32000-1)&システム非依存
- ・e文書/電子帳簿保存法に対応(電子署名、タイムスタンプなど)
- ・各種セキュリティ機能(RMS権限、AES暗号)を備え、ファイルサイズ小

更に業務効率化するために

PDF化(デジタル化)により、帳票データの活用が可能。
他システムとのデータ連携により、業務効率化・自動化

PDF帳票と基幹システム間のデータ連携を実現できるソリューション

PDF用WebAPI

WebAPI(SDK)でPDFドキュメントコントロールが容易に実現でき、短期間・低コストでのPDF連携が可能

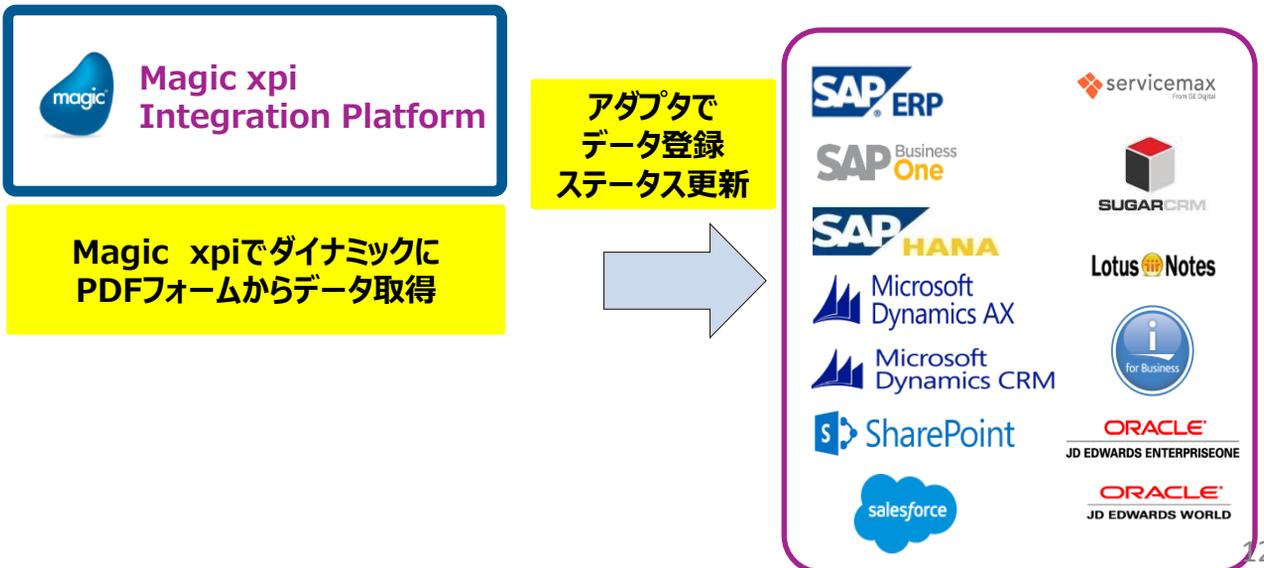
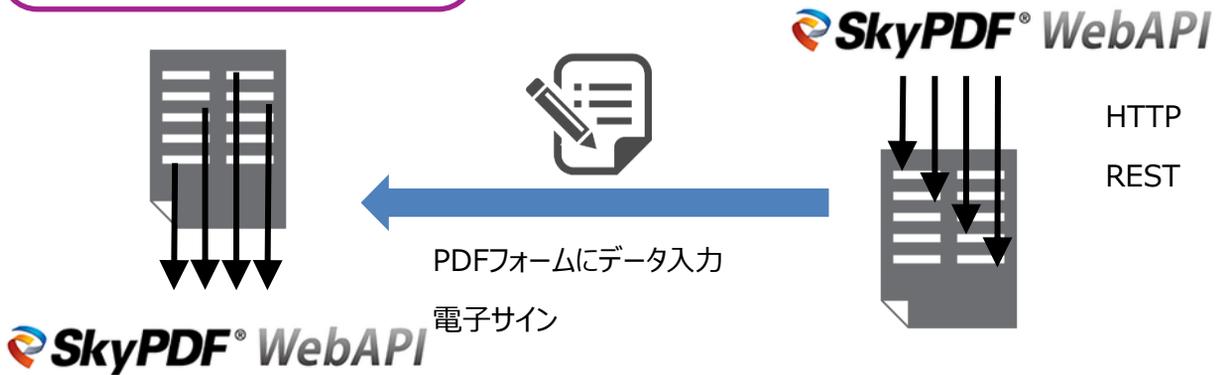
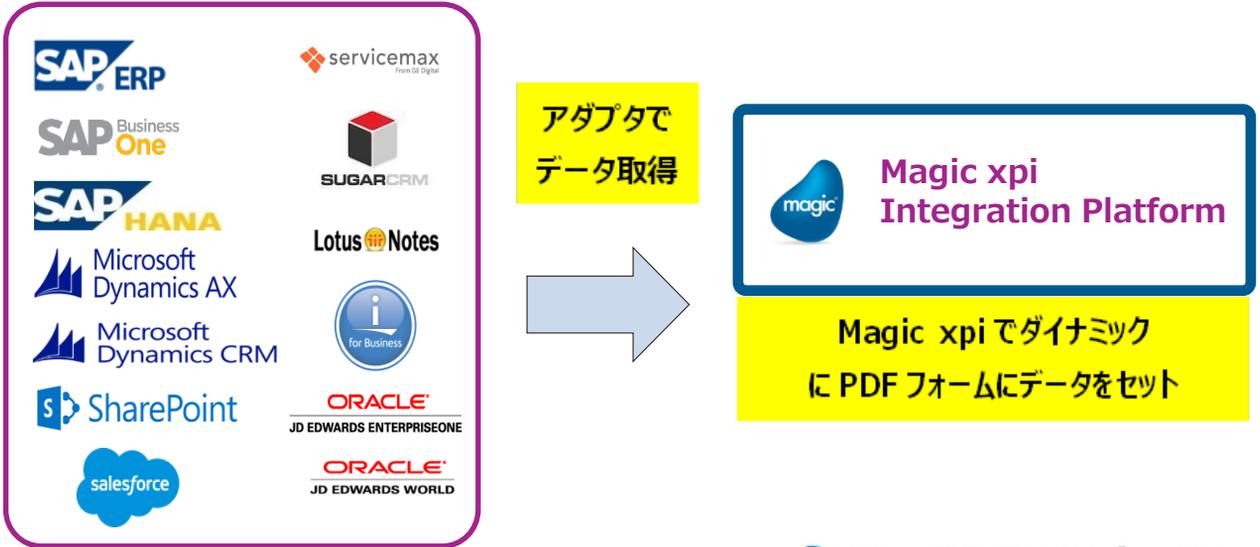


データ連携ツール

ERP、電子契約サービス、グループウェア間のデータ連携をノンコーディング開発し、連携開発の工数削減と業務プロセスの自動化・効率化を実現



Magic xpiによる他システムとのデータ連携

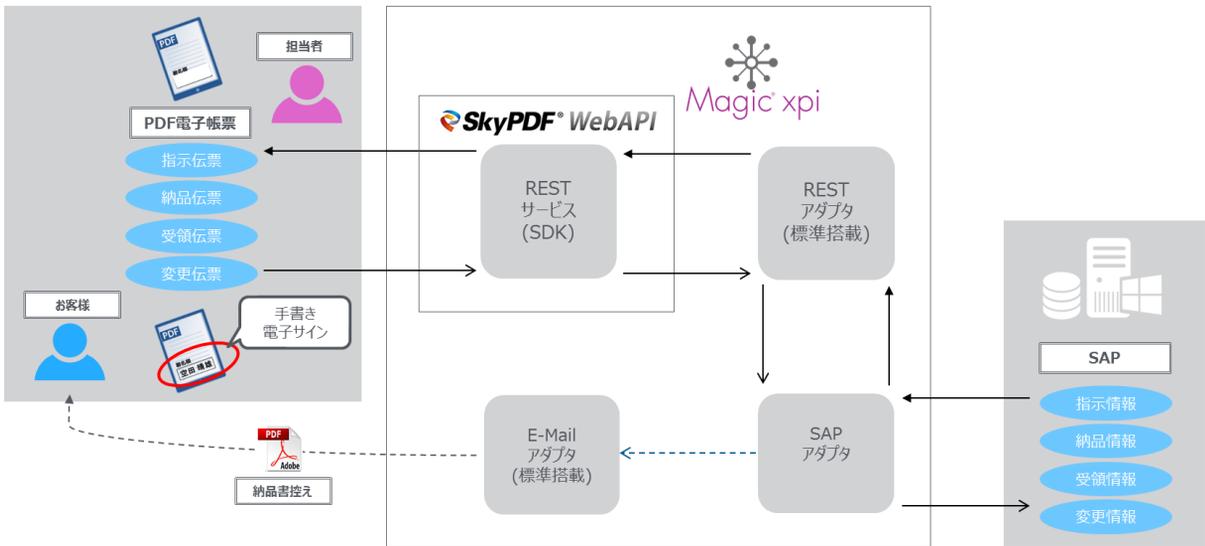
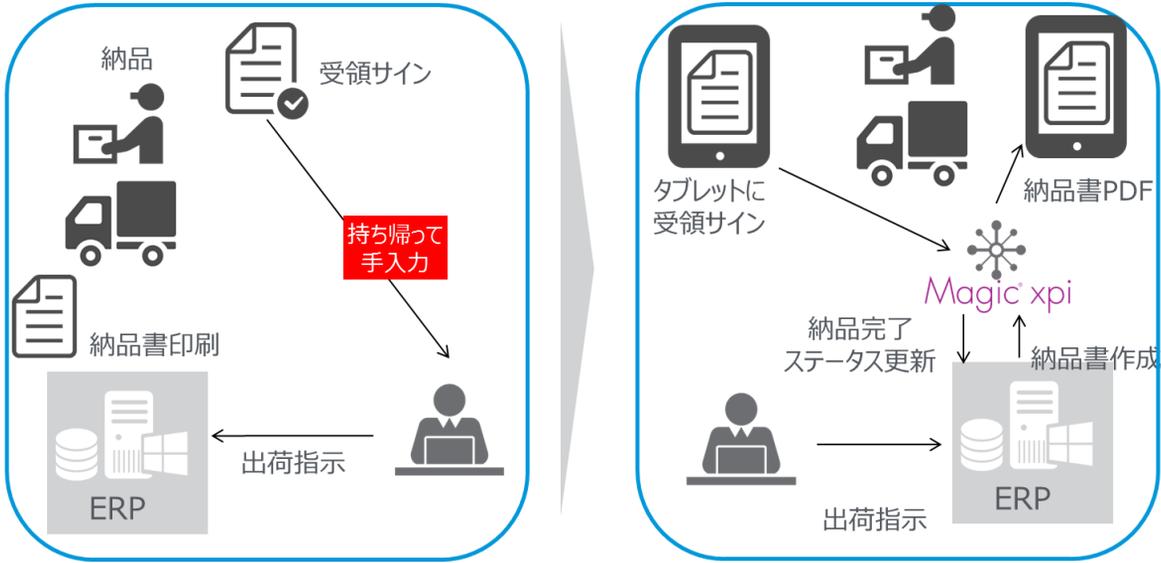


PDF帳票と基幹システム間のデータ連携例

ユースケース：納品・検収の効率化（某卸売り配送業）

目的：紙ベースの煩雑な検収手続きの改善、見直し検収の廃止(IFRS対応)

効果：配送指示のデジタル化(ペーパーレス化)、検収の精度向上・自動化・効率化



- 1. 左矢印： ERPから納品書フォームデータへ取込み
- 2. 右矢印： 納品書フォームデータのセット・ERPに検収完了のステータスを返す
- 3. 点線矢印： 納品書控えの送付

GMOクラウド株式会社



GMO インターネットグループのGMOクラウド株式会社が提供する「GMO 電子契約サービスAgree」は、20年間に渡ってホスティング・クラウドサービスを提供してきたGMOクラウドのノウハウと、国内シェアNo.1の電子認証サービスブランドを展開するGMOグローバルサインの電子署名サービスを活かして共同開発した、クラウド型の電子契約サービスです。電子契約の締結から管理までをワンストップで行えるので、印紙税や郵送料の削減、契約締結にかかる手間の軽減や時間を大幅に短縮でき、契約業務や受発注乗務などの署名業務の効率化が実現できます。

お問い合わせ

GMO電子契約サービス Agree 運営事務局

Tel: 03-6415-7444 (受付時間 平日 10:00~18:00)

Mail: inquiry-agree@gmocloud.com

Web: <https://www.gmo-agree.com/>

株式会社スカイコム



株式会社スカイコムは、自社開発のPDF技術を保有するPDF専門メーカーです。2003年から開発、販売を開始した「SkyPDF」は、高速・高圧縮・改ざん防止や暗号化による安全性に優れたPDFソフトウェアとして、企業や官公庁・自治体の高い評価を得、厳しい選定基準をクリアし、多数導入頂いております。



SkyPDF WebAPIは、REST I/Fを利用して、PDFの編集や変換技術を利用できるWebAPIです。PDFドキュメントコントロールが容易に実現でき、短期間・低コストでのシステム構築、アプリケーション開発が可能となります。

お問い合わせ : <https://www.skycom.jp/inquiry/company/mswp.php>

TEL: 03-5289-0788 (受付時間 : 平日9:00~17:30)

担当 : 営業部 梶原

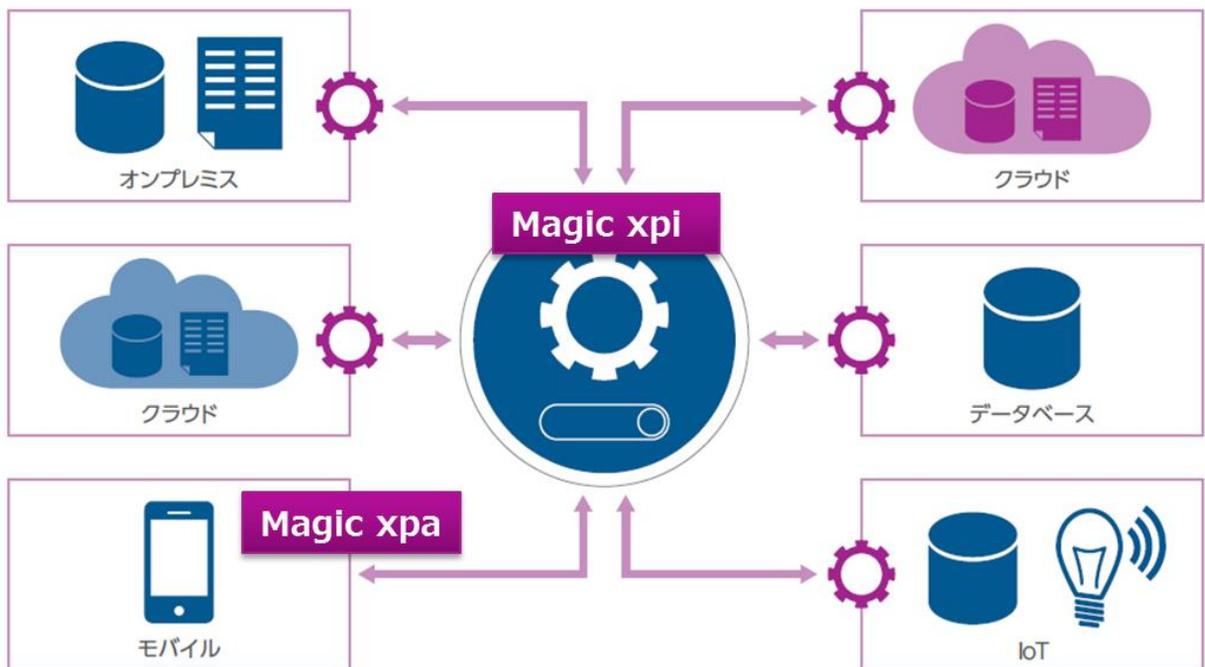
Magic xpiについて

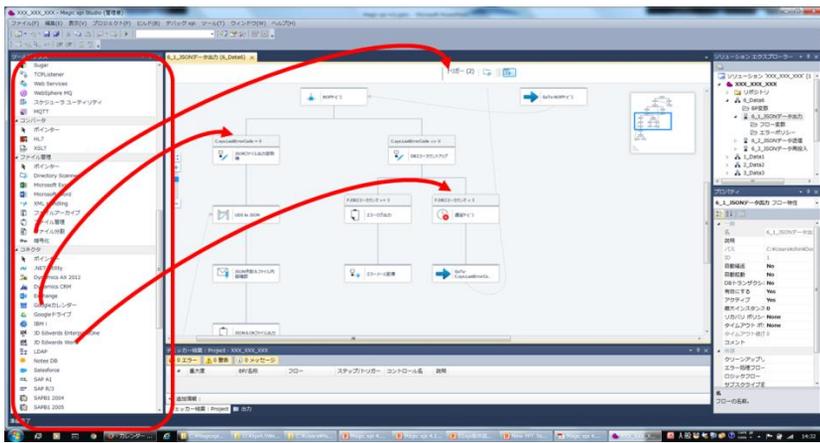
Magic[®] xpi

<https://www.magicsoftware.com/ja/integration-platform/xpi/>

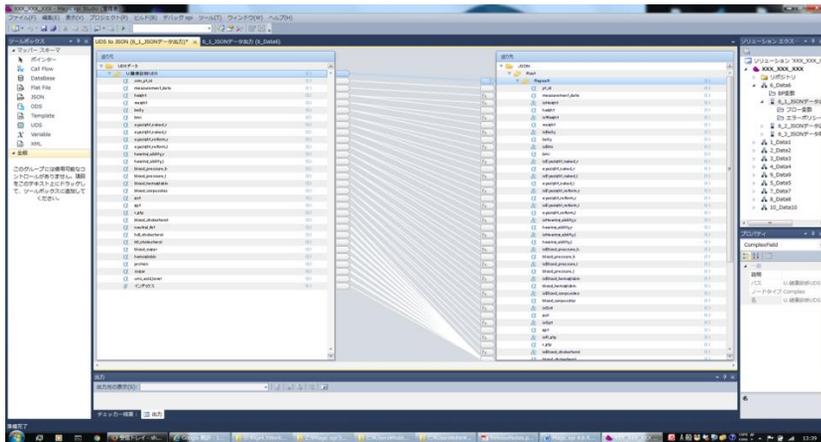
社内外に分散している様々なシステムやサービスが保有するそれぞれ異なるデータを、連携・同期・統合するデータ連携（EAI）ソリューションです。Magic xpiには、**66種500機能以上のアダプタ・コネクタ群**が提供されているため、簡単で直感的なユーザーインターフェースからドラッグ&ドロップでシステム連携フローがデザインできます。

またインメモリ技術のミドルウェアを標準搭載し、実行サーバーのスケールアウトと冗長構成を容易に構築できるため、**24時間365日ノンストップ**でかつ**ハイパフォーマンス**なシステム連携基盤を提供します。





ドラッグ&ドロップで連携フローを作成



マウス操作でデータ変換と移行

マジックソフトウェア・ジャパン株式会社

「アプリケーション開発プラットフォーム」と「システム連携ソリューション」のグローバル・プロバイダーである、マジックソフトウェア・エンタープライゼス（NASDAQ：MGIC）の日本法人です。

全世界50カ国以上にグローバル展開する私たちのソフトウェアソリューションは、オンプレミス、モバイル、クラウドベースのビジネス・アプリケーション等、あらゆる規模のシステム構築に活用されています。



製品・サービスについての詳細：
www.magicsoftware.com/ja
 お問い合わせ：
Japan_solution@magicsoftware.com



マジックソフトウェア・ジャパン株式会社
 東京都新宿区北新宿2-21-1
 新宿フロントタワー24階
[TEL:03-5937-3300](tel:03-5937-3300)

マジックソフトウェアは、この小冊子の内容について何ら保証しません。これによる利益の損失や、いかなる契約に基づく損害や過失があるうとマジックソフトウェアはいかなる責任も負いません。マジックソフトウェアは、この小冊子の内容や製品情報、価格について通知することなくいつでも変更できます。また、この小冊子の内容を更新する義務を負いません。Magicはマジックソフトウェア・エンタープライゼス社の登録商標です。Magic xpa、Magic xpiはマジックソフトウェア・ジャパン株式会社の登録商標です。この小冊子に記載されているあらゆる会社名、商品名は識別の目的においてのみ使用されており、各々の所有者の所有物もしくはトレードマークです。